木農水第1541号一2 令和7年10月2日

農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定に基づき、公表します。

木更津市長 渡辺 芳邦

市町村名		木更津市					
(市町村コード)		(12206)					
地域名 (地域内農業集落名)		大寺地区					
	(大寺地区)						
協議の結果を取りまとめた年月日		令和7年9月25日					
		(第1回)					

注1:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。

注2:「協議の結果を取りまとめた年月日」欄には、取りまとめが行われた協議の回数を記載してください。

- 1 地域における農業の将来の在り方
- (1) 地域農業の現状及び課題

|当地区では、主に水稲が耕作されており、耕作者は10名である。

課題として以下の事項が挙げられる。

- ・現況、集落営農組織も担い手(中心経営体)の確保も困難な状況であるため、農地中間管理機構を利用して担い手農家の育成、確保を進めたい。担い手がいない状況が続くと耕作放棄地の拡大が懸念される。
- ・集落内には小規模農家、兼業農家しかいないため、隣接する集落の大規模法人に集積して地域の農業、農地 を維持すると共に、地域内の農業者と地域外の担い手の適切な役割分担に基づき地域資源を保全管理する必 要がある。
- ・構成員の高齢化、非農業者の増加により、農地方面の草刈や水路の泥上げ等の地域資源の保全管理活動への参加者が減少傾向となっており、少ない人数で効率的に保全活動が行えるよう維持管理の省力化や低コスト化を図る必要がある。
- (2) 地域における農業の将来の在り方

当地区では、多面的機能直接支払交付金を活用しているが、担い手に更なる農地集積・集約を進め地域の農業生産体制を整備強化し、担い手との協力・役割分担により保全管理を図る。また、地域内の一般住民に対して、保全管理活動が地域を守る活動であることを組織代表者会議、会報及び区内広報等で周知することで、これまで活動に参加されていない人々の参加を促し、保全管理活動の継続や強化を図る。

- 2 農業上の利用が行われる農用地等の区域
- (1) 地域の概要

区	域内の農用地等面積	ha
	うち農業上の利用が行われる農用地等の区域の農用地等面積	ha
	(うち保全・管理等が行われる区域の農用地等面積)【任意記載事項】	ha

(2)農業上の利用が行われる農用地等の区域の考え方(範囲は、別添地図のとおり)

注:区域内の農用地等面積は、農業委員会の農地台帳等の面積に基づき記載してください。

(1)		E #= 45.11	<u> </u>	L Δ1							
(1)	農用地の集積	夏、集約10	JU),	力 針							
耕化	F者がいない 	長地を中心	いに	集約・集積を図り、農地	の対	小率化を促進し、	耕1	作放棄地の	防止	に多	子める。
(2)	農地中間管理	፟፟፟፟፟፟፟፟፟፟፟፟፟፟፟፟፟፟፟፟፟፟፟፟፟፟፟፟፟፟	舌用	方針							
農地	也の貸し借りは	:、原則と	して	農地中間管理機構を活	用し	<u>、</u> 規模拡大を目	指	している者・	へのタ	集約	を図っていく。
	基盤整備事業										
担し	ゝ手のニーズを	-踏まえ、	補具	力事業を活用する等検討	けして	ていく。					
	多様な経営体							- 14 - 1-			
県•	市、農業委員	会や農協	なと	ごの関係機関と連携を図	るこ	とで、地域内外	から	5多様な経	営体の	の確	保に努める
				援サービス事業者等へ							
農業	美支援サービス	スを行う事	業	本の情報を地域内で共					舌用で	きる	るようにするこ
農業		スを行う事	業	本の情報を地域内で共					舌用で	きる	るようにするこ
農業	美支援サービス	スを行う事	業	本の情報を地域内で共					舌用で	きる	るようにするこ
農業で、	美支援サービス 遊休農地の解	スを行う事 弾消・防止	業化を図	本の情報を地域内で共	有し	、農業者が適切	なさ	ナービスを活			るようにするこ
農業で、以下	美支援サービス 遊休農地の解	スを行う事 詳消・防止 項(地域 <i>の</i>	業にを図りませる。	本の情報を地域内で共存 する。	有し	、農業者が適切	なり	ナービスを活	ださい)	るようにするこの ちょうしゅ ちょうしゅ ちょうしゅ ちょうしゅ ちょうしゅ しゅうしゅ しゅうしゅ しゅうしゅ しゅうしゅ しゅうしゅ しゅうしゅ しゅうしゅう はいまい しゅうしゅう はいまい しゅうしゅう はいまい しゅうしゅう はいまい しゅうしゅう しゅうしゅう はいまい しゅうしゅう しゅうしゃ しゅうしゃ しゅうしゃ しゅうしゃく しゅう しゅうしゃく しゅうしゃく しゅうしゃく しゅうしゃく しゅう しゅう しゅうしゃく しゅう
農業で、	美支援サービス 遊休農地の解 「任意記載事」	スを行う事 詳消・防止 項(地域 <i>の</i> 5止対策	実の実	本の情報を地域内で共存する。 情に応じて、必要な事項	有し	、農業者が適切 選択し、取組方針	なせ	ナービスを活	ださい _{創出等})	
農業で、以口口口口	美支援サービス 遊休農地の解 「任意記載事」 ①鳥獣被害防	スを行う事 経消・防止 頃(地域の 防止対策 作物等	実り実立	本の情報を地域内で共存する。 情に応じて、必要な事項 ②有機・減農薬・減肥料	有し、 を選	、農業者が適切 選択し、取組方針 ③スマート農業	なせ	ナービスを活 記載してく <i>f</i> ④畑地化・輔	ださい _{創出等})	5)果樹等
農業で、以口口口	支援サービス 遊休農地の解 任意記載事 ①鳥獣被害防 ⑥燃料・資源・ 択した上記の	スを行う事 評消・防止 項(地域 <i>の</i> 防止対策 作物等 取組方針	実の実で	本の情報を地域内で共存する。 情に応じて、必要な事項 ②有機・減農薬・減肥料	を遺	、農業者が適切 選択し、取組方針 ③スマート農業 ⑧農業用施設	オを	ナービスを活記載してくが ④畑地化・輔 ⑨耕畜連	ださい _{創出等} 携等	·) □	⑤果樹等 ⑪その他
農で、以口口選(選)で、	支援サービス 遊休農地の解 任意記載事 ①鳥獣被害防 ⑥燃料・資源 択した上記の 可機農業に取り ⑧今後地区内	マを行う事 項(地域の 毎上 物 等 が 等 方でいる が の で の で の で の で の で の で の で の で の で の	業体を 実 図 図 図 の とが	本の情報を地域内で共るる。 情に応じて、必要な事項 ②有機・減農薬・減肥料 ⑦保全・管理等 耕作者がいるため、有機 進むことで機械の導入や	有し を	、農業者が適切 選択し、取組方針 ③スマート農業 ⑧農業用施設 業関係の補助事 託費用、農業用	なせる	ナービスを活記載してくが ④畑地化・輔 ・	ださい 第出等 携令化に	してる	⑤果樹等 ⑪その他 いく。 修理や交換費
農で以口口選挙・第	支援サービス 遊休農地の解 任意記載事 ①鳥獣被害即 ⑥燃料・資源 択した上記の 可機農後地区内 ほが発生するこ	スを行う事項(地対策 年 知組の高が引きる)	業(を)実 図	本の情報を地域内で共存する。 情に応じて、必要な事項 ②有機・減農薬・減肥料 ⑦保全・管理等 耕作者がいるため、有機 進むことで機械の導入や いるため、多面的機能支	有し を	、農業者が適切 選択し、取組方針 ③スマート農業 ⑧農業用施設 業関係の補助事 託費用、農業用	なせると、	ナービスを活記載してくが ④畑地化・輔 ・	ださい 第出等 携令化に	してる	⑤果樹等 ⑪その他 いく。 修理や交換費
農で 以□□選をできる。	支援サービス 遊休農地の解 任意記載事 ①鳥獣被害 ⑥燃料・資源 ⑥燃料・記の 「機農後生金の」 「機力を発生のころ」 「補助金の活」	マを () 上 作 取 組 の が 検 が 等 方 で 齢 え に しょう か ま か に 他 え に し か ま と も か に 他 え に し か ま か し か か し か か し か か か か か か か か か	業を 実	本の情報を地域内で共存する。 情に応じて、必要な事項 ②有機・減農薬・減肥料 ⑦保全・管理等 耕作者がいるため、有機 進むことで機械の導入やいるため、多面的機能支いく。	すし を □ □ □ 農 機会 払	、農業者が適切 選択し、取組方針 ③スマート農業 ⑧農業用施設 戦関係の補助事 託費用、農業用 を付金の活用可	な を	記載してくが ②畑地化・輔 ③耕畜連 等の活用も 投の経年に	だは、りません。 大き は いき は い	したます	⑤果樹等 ⑪その他 いく。 修理や交換費 るとともにその
農で 以□□ 選 (4・)等の 問題 (1・)	英援サービス 遊休 機力 で 一 (で) は (で)	スを消 () 作 取 り い が り が り が り が も の と も に り り り り り り り り り り り り り り り り り り	業怪 実 図 図 】 るがらてる	本の情報を地域内で共存する。 情に応じて、必要な事項 ②有機・減農薬・減肥料 ②存機・減農薬・減肥料 ⑦保全・管理等 耕作者がいるため、有機 進むことで機械の導入や いるため、多面的機能支いる。 等の際、地権者と耕作	すし を □ □ □ 農 機会 払	、農業者が適切 選択し、取組方針 ③スマート農業 ⑧農業用施設 戦関係の補助事 託費用、農業用 を付金の活用可	な を	記載してくが ②畑地化・輔 ③耕畜連 等の活用も 投の経年に	だは、りません。 大き は いき は い	したます	⑤果樹等 ⑪その他 いく。 修理や交換費 るとともにその
農で 以 □ □ 選 本・等の農気	大 接 表 接 表 接 表 接 表 接 表 接 表 接 表 接 表 生 意 と ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま	スを消 () 作 () 作 () か () 数 () 数 () 数 () 数 () 数 () 数 () 数 () 数	業区 実 図 図 るがらてる報	本の情報を地域内で共る。 情に応じて、必要な事項 ②有機・減農薬・減肥料 ②保全・管理等 耕作者がいるため、有機 進むことで機械の導入やいるため、多面的機能支いる。 等の際、地権者と耕作者をすることとする。	する できる は とし と	、農業者が適切 選択し、取組方針 ③スマート農業 ⑧農業用施設 業関係の補助事 託費用、農業用 で協議し、お互 で協議し、お互	な+ を	記載してくが ・一ビスを活 ・記載してくが ・御畑地・軸 ・野の活用も ・登保全会に ・合意したう	だは、第一人族とは、一人族とは、一人族とは、一人族とは、これをは、これをは、これをは、これをは、これをは、これをは、これをは、これを) □ □ しよきす 決	⑤果樹等 ⑪その他 いく。 修理や交換費 るとともにその
農で「以□□」【②⑦用他⑩決⑩⑪	支援機 地の 事 は 任 息 獣 ・ 上 業 地 で 第 と 代 息 獣 ・ 上 業 地 重 で で で で で で で で で で で で で で で で で で	マを消 頃 近 作 取 別のと用び覧地画行防 域 策 等 方 で齢考討をで計りのよう まま かく かいしょう はい がく いっこう はい がく かい がい かい	**	本の情報を地域内で共る。 情に応じて、必要な事項 (②有機・減農薬・減肥料 (②存性・管理等 特作者がいるため、導入や がいるため、事がの機能の機能であるため、多の際、地権者とする。 いく。際、地権者とおいる。 等のですることとする。 の確認は、地元代表出 のでいて、事前の申し出	する では、 は、 では、 は、 は、 は、 は、 は、 に、 は、 に、 に、 に、 に、、、、、、、、、、	、農業者が適切 選択し、取組方針 ③スマート農 ③農業用施設 *と関係の補助事 託費用、農用可 で協議し、お互 で協議し、お互 を認することで知	なける	記載してくが 記載してくが ④畑地畜連等の経会に ・会にこれる。 ・。 ・。 ・。 ・。 ・。 ・。 ・。 ・。 ・。 ・	だ出 携 検化談 でえ) □ ☑ しよを 決 る。	⑤果樹等 ⑪その他 いく。 ・修理や交換費 るとともにその ごをする。なお、
農で以口」選挙・等の農労学科	支援機 地の 事 は 任 息 獣 ・ 上 業 地 で 第 と 代 息 獣 ・ 上 業 地 重 で で で で で で で で で で で で で で で で で で	マを消 頃 近 作 取 別のと用び覧地画行防 域 策 等 方 で齢考討をで計りのよう まま かく かいしょう はい がく いっこう はい がく かい がい かい	**	本の情報を地域内で共る。 情に応じて、必要な事項 (②有機・減農薬・減肥料 (②存性・管理等 特作者がいるため、有機 進むことで機械の導入を いるため、多面的機能を いるため、 等の際、地権者と耕作を 告をすることとする。 の確認は、地元代表者	する では、 は、 では、 は、 は、 は、 は、 は、 に、 は、 に、 に、 に、 に、、、、、、、、、、	、農業者が適切 選択し、取組方針 ③スマート農 ③農業用施設 *と関係の補助事 託費用、農用可 で協議し、お互 で協議し、お互 を認することで知	なける	記載してくが 記載してくが ④畑地畜連等の経会に ・会にこれる。 ・。 ・。 ・。 ・。 ・。 ・。 ・。 ・。 ・。 ・	だ出 携 検化談 でえ) □ ☑ しよを 決 る。	⑤果樹等 ⑪その他 いく。 ・修理や交換費 るとともにその ごをする。なお、

3 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために必要な事項